

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問栄養指導の活動報告と今後の課題
演者名	衛藤彩 1)2)、平岩真紀 1)2)、 石田友樹 2)、古谷和久 2)、藤岡泰博 2)、 沖井明 2)3)
所属	1)ウオント吉島薬局 管理栄養士 2)コールメディカルクリニック広島 NST 3)沖井クリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		1

目的

症例報告を行い訪問栄養士の活動と必要性について認知度を高める。

方法

訪問栄養の介入目的を達成できた 6 例の指導内容を報告し、今後の訪問栄養の展開について考える。

症例①目的：高血圧予防の減塩指導。介護者の負担を考慮し市販品の活用や使い回せる簡単レシピを紹介。患者が取り組んでいる減塩方法を確認することで、自信を持って頂けた。

症例②目的：多系統萎縮による体力低下予防。高エネルギー高タンパク食の調理法や食材を提案。栄養補助食品も活用し、摂取エネルギー、体重ともに増加した。また栄養量算出は栄養バランスを確認でき、安心感を与えた。

症例③目的：腎機能悪化防止の為、減塩指導。減塩醤油の活用など減塩のポイントを繰り返し伝える事で、塩分摂取量 20g→9g に減り、腎機能が安定した。

症例④目的：誤嚥予防の為、食形態見直し。Alb も低値であった為高エネルギー高タンパク食の指導も行なった。結果誤嚥もなく、摂取エネルギーは+200~500kcal、Alb3.5→3.9 と改善が見られた。市販品の活用により介護負担が軽減出来た。

症例⑤目的：COPD による体重減少防止。健康意識が高く腹八分目、野菜を中心とした食事をされていた。病態に適した食事療法の必要性を説明し、高エネルギー高タンパク食に切替え、栄養補助食品も活用。結果、摂取エネルギーが増え、体重 35.6kg→39.4kg と改善した。

症例⑥目的：血糖コントロール。独居の為、食事量が把握出来ず、食事調査を実施した所、夜中にパンを食べている事が判明。パンを見えないように隠す事で、夜食が予防でき、HbA1c9.1→6.7 と改善が見られた。

考察

訪問栄養士の活動は、食に関する相談役であると考えている。本人や家族の思いを尊重しつつ結果を出す事は難しいが、1 つでも提案していきたいという思いで活動している。訪問栄養士の活動を知ってもらう事で、依頼増加に繋げていきたい。